

記者会見議事概要

日 時 令和7年4月25日(月)

午前10時から

場 所 市役所3階 大会議室

1 越前たけふ駅及び駅東パークアンドライド駐車場利用動向調査の結果について

- ・かねてから混雑が指摘されていた新幹線の駅の駐車場について、3月に調査をしました。
- ・その結果を報告し、今後の進め方について説明します。
- ・3月4日から10日までの7日間、朝5時半から夜の11時半までの時間帯に調査をしました。
- ・改札口の前で新幹線の乗降数を調べました。また、新幹線に乗車する方にアンケート調査を行いました。さらに、駅東パークアンドライド駐車場の利用状況を調査しました。
- ・乗降数について、乗車数は、金曜日、土曜日がピークでした。
- ・降車数は、金曜日、土曜日、日曜日がピークでした。
- ・調査期間中の平均乗車数は484人でした。JR西日本の発表した数字が500人でしたので、概ね我々の調査した数値と一致しています。
- ・改札口の付近で、新幹線に乗車する人へのアンケート調査についてです。
- ・乗車数は3,388人であり、約35%の人から回答がありました。
- ・新幹線に乗る方の割合について、越前市の人が54%でした。
- ・県内他市町、県外は、資料に記載のと通りの数字です。
- ・県外の人が、前回よりも増えました。
- ・県内他市町 414 人の内訳については、丹南エリアの人が約8割でした。鯖江市が一番多いですが、福井市、坂井市の人も乗っています。
- ・次に、新幹線に乗車する方の居住地についてです。
- ・県外の利用者137人の内訳として、福井県以外の北陸、関東、関西、中京が、それぞれ資料のとおり割合です。今回の調査では、関西が随分伸びました。
- ・どのような方が新幹線に乗っているかについて、約1割の方が、毎日新幹線を利用していました。通勤通学に使っているのかと思います。
- ・月に1~2回の利用、あるいは半年に1回程度の利用というのは、旅行などに行かれる方かと思います。

- ・越前たけふ駅までどのように来たかということについては、自家用車が77.5%でした。
 - ・特徴的な点として、送迎が前回から少し増えました。
 - ・前回調査では、約9割が自家用車でしたが、これが少し減り、送迎が増えました。停められなかったら困るという人は、家族に送ってもらう、あるいは、社用車で迎えに来てもらうというケースが多いようです。
-
- ・駐車場の混雑対策として、有料化について調査しました。
 - ・約5割は、無料の方がいいと回答しました。
 - ・有料化などを検討すべきという人が約4割いて、意外に高い数字でした。有料化することにより、しっかり台数をコントロールして欲しいという趣旨かと思います。
-
- ・ただ、有料化する場合には、他の駅よりも安くしてほしい、という回答がありました。
 - ・福井駅周辺では、1日1,000円や、1,000円を超えるところもたくさんあります。それと比べて安くして欲しいということだと思います。
 - ・また、新幹線利用者に割引してほしいという回答が、7割ありました。新高岡駅などは、改札口の中に割引処理をする機械が置いてあります。このような割引をしてほしいということだと思います。
 - ・このほか、月極駐車場が欲しい、空車台数をウェブ公開してほしいという回答もありました。
 - ・大まかに申しますと、有料化をしてもいいけれども、新幹線に乗るときは割引をして欲しい、ということかと思います。
-
- ・駐車場の利用状況についてです。
 - ・第1、第2駐車場合わせて437台分あります。道の駅の駐車場は、除いています。
 - ・第1駐車場は、概ね9割を超えています。96%や98%という利用率を見て、いつも満車だと思われる方がいるのだと思います。
 - ・第2駐車場も、月曜日から木曜日までは余裕がありますが、金曜日、土曜日、日曜日は、利用率が9割近いので、かなり埋まっています。
-
- ・どのような使われ方をしているかについてです。
 - ・雪の時に、置きっぱなしにしている車が何台もあるのではないかという声がありましたが、実際は、1日、2日までの利用が83%でしたので、概ねパークアンドライド駐車場の本来の趣旨に沿って利用されていると言えるのではないかと思います。
 - ・1週間以上車を置いているケースもありますが、これは、海外旅行や長期出張に伴う利用だと思われます。必ずしも割合は大きくないので、本来の目的どおり使われているのだと思います。
-
- ・今後は、駐車場を100台分プラスする予定です。

- ・遅くとも秋のシルバーウィークまでには、舗装をした駐車場を確保する予定です。
- ・完成時期は秋になりますが、夏休みに、暫定的に砂利敷で供用できないかを検討しています。
- ・この 100 台の利用状況を見た上で、例えば、有料化にどれぐらいの費用がかかるかを見極める必要があります。例えば、ゲートの設置数や、設置・管理に要する費用などを見極める必要があり、駐車場関係の事業者から見積もり等を集めたいと思っています。
- ・もう1点、福井村田製作所が 1 年後に操業を開始するので、その動向や、共立メンテナンスが作るドーミーイン系のホテル、これと合わせて作るレストラン、温浴施設の進捗状況、さらには、官民で作る交流拠点である未来創造基地の進捗状況、あるいはその駐車場の利用状況、準備状況なども含め、有料化について引き続き検討をしたいと思っています。
- ・まずは、100 台分ができあがる秋、そして年末年始の状況を見極めて対応したいと思いますが、準備は並行して進めたいと思っています。
- ・有料化ををするとしても、割引をするなど、極力丁寧な料金体系とし、特に、1、2 日の短期間の駐車の場合の負担があまり大きくならないように気をつけたいと考えています。

2 越前たけふ駅ゴールデンウィーク期間中の駐車場混雑対策について

- ・昨年のゴールデンウィークは、新幹線開業直後ということもあり、色々なイベントを行いましたので、かなり駐車が増えるという状況でしたが、今年のゴールデンウィークは、少し収まるのではないかと考えています。
- ・一方で、最近の道の駅の混雑具合を見ていますと、逆に定着した部分もあるのだと思っています。
- ・特に、冠山峠トンネル、板垣坂バイパスができることによって、岐阜、愛知からの車が来ますと、第 1、第 2 駐車場だけでなく、道の駅駐車場もいっぱいになります。その影響が、東側の駐車場に出ることも考えられます。
- ・これまでやってきましたが、パークアンドライド駐車場の混雑状況をYouTubeでライブ配信します。
- ・また、市のホームページでお知らせするほか、市の公式 LINE を使ってプッシュ型でお知らせします。
- ・誘導も的確にし、第 1、第 2 駐車場は、新幹線や高速バスの利用者が優先であることを、しっかりとお願いをしていきます。
- ・交通誘導員も、資料にある数字で配置をします。特に、道の駅の西側にある大型車両駐車場は、休日には必ずしも埋まてはいないので、乗用車が止められるよう誘導していきます。
- ・また、道の駅の南西側に位置する交流広場を、50 台分の臨時駐車場として開放します。
- ・そして、900mほど距離がありますが、福井新聞の折り込みセンター横を使わせていた

だくことを、PR センターの方をお願いをしました。

3 大河ドラマ「光る君へ」題字贈呈式について

- ・大河ドラマ「光る君へ」の題字についてです。
- ・根本さんが書かれた題字を、NHKから寄贈していただくことになりました。
- ・大河ドラマ館で使っていた展示品を、紫ゆかりの館に展示しており、大河ドラマの成果をさらに、継続・拡大するため、これらとあわせて、展示します。
- ・根本さんと川口さんに来ていただき、4月27日(日)の1時半からセレモニーを行います。
- ・今年の大河ドラマ「べらぼう」の題字も、本市出身の石川九楊さんがお書きになっています。「書のまち」越前を展開するための相談しており、内容が固まりましたら、お知らせしたいと思います。

質疑応答

Q

- ・北陸新幹線たけふ駅の駐車場は、有料化を前提に検討していくということか。

A

- ・今回100台分を増やすことにより、十分な余裕があれば、急いで有料化する必要はないと思っています。
- ・原則無料で始めたので、問題がなければ無料のままでと思っています。
- ・100台分増やしても、どんどん増えていくという状況であれば、あるいは、今後の新幹線駅前の整備状況を踏まえ、駐車場ニーズに状況変化が起きれば、その段階で考えることになると思います。
- ・準備はしますが、有料化を前提に、というところまでは至っていません。

Q

- ・東側駐車場の混雑状況は、今も続いているということか。

A

- ・昨年、新幹線開業直後に色々なイベントを行った時期には、イベントに来る方の車で溢れたことがありますが、それ以降は、イベントはあまりやっていませんし、今の状況からすると、臨時駐車場でのしのげるのではないかと思います。
- ・ただ、新幹線のパークアンドライドにしても、道の駅の利用にしても、イベントが無くても、どんどん人が来ている、需要が安定し、定着していると感じます。
- ・特に道の駅は、近くの人が結構来ており、需要もあります。
- ・もう少し見極める必要はありますが、駐車場がガラガラになることはもう無いかと思いますので、混雑対策はしっかりやっていきます。

Q

・北側に100台分追加で整備する駐車場の完成時期は、いつ頃か。

A ※都市計画課長

・時期を2つに分けて考えています。

・北側駐車場の南側の直線部分に当たる約80台分は、シルバーウィークまでに完成させたいと思っています。

・最北端の湾曲部分は、田んぼに隣接しており、耕作の事情もあるので、年内にと考えています。

Q

・駐車場の有料化を容認している4割の方は、有料化をすれば台数が少し減ることを期待しているのだと思う。

・しかし、99.4%という利用率からすると、有料化しても、台数が減るのかは疑問。

・概ね8割が2日以内の利用であり、健全な使われ方をしている。有料化しても混雑が減らないとなると、いかがなものか。

・市長は、どうお考えか。

A

・初期のころは、長期間の駐車や相乗り利用など、おかしい使われ方をしているのではないと言われていました。

・その意味では、有料化は効果的ですが、皆さんが適正に利用しているのであれば、さほど効果がないのではないかという面はあると思います。

・ただ、空き台数をお知らせするという意味において、コントロールが要るのではないかと思います。

・収益を得るという目的ではなく、出入り管理をすることが大事であり、その上で、有料化という考え方があるのではないかと思います。

・さらに、新幹線や高速バスに乗る人には割引をするなど、様々なことを行えば負担は増えません。それをきちんとやらなければならないと思います。

Q

・越前たけふ駅には、かがやきが、朝一番と最終の2往復止まっている。その乗車率、乗降数を教えてほしい。

・今後、越前たけふ駅にかがやきが止まり続けるためにも、乗車率の数字をきちんと出しておくのが大事だと思うが、いかが。

A

・数字は、JR が押さえているかと思っています。

・越前たけふ駅から新幹線に乗るという習慣を作ることが大事です。

・福井市や坂井市からも、越前たけふ駅の駐車場に停めに来ている人がいます。

・福井駅では、駅から遠い駐車場でなければ完全に空いているかが分からないですし、

駅の近くでは料金が高いので、車を停めて新幹線に乗るのが大変です。

- ・丹南地域はもちろんですが、福井の南側、あるいは、高速道路の近くであれば、越前たけふ駅の方が、はるかに有利になります。
- ・そのような意味で言いますと、越前たけふ駅の駐車場を使うことが、定着しつつあると思います。

Q

- ・有料化を視野に今後検討する上で、ゲート設置などの費用について、見積りをとるという話があった。
- ・一旦は、100 台分が追加されてからの混雑状況を見ていくということだが、完成を待たずに、見積りなどの準備を早急に始めていくという認識で間違いないか。

A

- ・有料化するかどうかを判断するに当たっての、コスト効果の話だと思います。
- ・例えば、有料化するのに何千万円もかかるということであれば、そこまでお金をかけるよりは、もう少し駐車場を増やす工夫をした方がいいのではないという議論になります。数百万円でできるということであれば、管理も含めてやってもらった方が、より使いやすいのではないかという考え方もあります。
- ・そのようなメリット・デメリット、あるいはコスト効果を比較し、判断をする材料として、どれくらいの費用がかかるのかと。
- ・有料化に伴いゲートを設置すると、残り台数をカウントできます。
- ・利用者からすると、「20台空いているなら、すぐ埋まることはないだろう。」「5、6台だったら、心配だから送ってもらおう。」などの判断ができるというメリットがあります。
- ・ですが、費用を見ないと、そこに踏み切れません。議論をする材料として、費用を見たい、ということです。

Q

- ・市の枠組みとして、西側が道の駅の駐車場で、東側が新幹線やバスの利用者の駐車場という、明確な位置付けがある。
- ・ただ、利用者からすると、どちらも新幹線の駅の駐車場だと認識している方も、かなりいるように思う。
- ・仮に有料化となった場合に、道の駅側の駐車場の有料化というのは難しいのではないか。その仕分けや整理をどのようにするのか、現時点での構想は。

A

- ・無料でなければ道の駅としての要件を満たさないので、道の駅の駐車場の有料化は、できません。
- ・東側駐車場を有料化すれば、無料である道の駅の駐車場に停めるのではないか、という話もあると思いますが、仮に有料化した場合でも、30分は無料だとか、1時間は無料だとかすれば、ご飯を食べたり、買い物をしたりする時間は、十分あります。

- ・道の駅に来た人が、有料化した駐車場を使うこともあるかもしれませんが、それほど大きな弊害にはならないのではないかと思います。
- ・ただ、仕分けが難しいのはおっしゃるとおりです。有料化する上での問題点の一つだと思います。
- ・東側駐車場を有料化した場合に、西側駐車場に車を置いて新幹線に乗ってしまうことを、これをどう食い止めるかというのは、なかなか難しいかと思います。
- ・将来、ホテルができると、ホテルにも有料駐車場ができたりします。その駐車場との仕分けもあります。
- ・これからの整備状況を見ながら対応していくことになるのではないのでしょうか。

Q

- ・今回の調査結果からすると、かねてから指摘されていた駐車場の目的外利用は、基本的に無かったという見解でよいか。

A

- ・ほとんど無いとみています。みなさんのモラルが発揮されているのではないかと思います。
- ・雪の時期に、屋根に雪のある車が何台かありましたが、それも、長期で出かけた場合であり、100%無いかは分かりませんが、基本的には、そのようなことは無いというのが、今の判断です。

Q

- ・タクシーとシャトルバスの利用が前回調査よりも少し増えたが、二次交通が圧倒的に貧弱だと思っている。二次交通として設けたシャトルバスの利用も低迷しており、難しい面があるのかと。
- ・オンデマンド交通の対象地域を広げるなど、もう少しバランスの良いやり方があったのではないと思うが、二次交通についてはどうお考えか。

A

- ・都市部と違い、公共交通機関が10分に1本、5分に1本来るようなところではないので、タクシー、レンタカー、カーシェアなど、様々な形の二次交通の手段を用意しています。
- ・タクシーについては、一時、運転手が足りないということもありましたが、県も含めて努力をしてきた結果、改善しつつあります。
- ・デマンド交通についても、予約型のタクシーを使うことができます。慣れの問題もありますが、二次交通については、手段の多様化と周知を徹底してやる必要があると思います。
- ・丹南地域全体がそうですが、様々な観光資源が分散しています。
- ・遠くはないが、歩いては行けないという、その分散している観光資源を上手に回る仕組みを用意する必要があります。
- ・路線バスやコミュニティバスのように、定時に定点を回るようなものは、あまりにロスが

- 多く、実際に乗る人も少ないので、需要に応じて用意せざるを得ないと思います。
- ・実際の利用者の方の声を聞きながら、しっかり対応していきたいと思います。

Q

- ・観光拠点をデマンド交通でというのは分かるが、それは一時的な観光客による利用でしかない。
- ・デマンド交通の行き先を市内全域に広げれば、地元に住んでいる人でも、越前たけふ駅まで比較的安価で行ける。
- ・地元市民の利用を想定したデマンド交通というのがあり得ると思うが、いかがか。

A

- ・この地域の交通の実態からすると、マイカーが中心になると思います。
- ・家族に乗せてもらったり、あるいは相乗りしたりすることに慣れ親しんでいるので、新幹線に乗るためにデマンド交通を使う方は、それほど多くないのではないかと思います。
- ・一般の生活利用の場合はマイカー利用が中心で、その中にデマンド交通も含まれる、ということかと思います。
- ・新幹線の利用を拡大していく上では、デマンド型の交通と新幹線との連結をどうするかは、1つの課題ですので、あわせて考えたいと思います。

Q

- ・APB 株式会社の破産開始手続きの件について伺う。
- ・越前市も補助金を出していたが、今回、このような結果になった。
- ・市長としての受け止めは。また、今後の対応は。

A

- ・大きな期待を持っており、ぜひとも成功してほしいと思っていたので、残念でした。
- ・このような新しいチャレンジが成功する確率は、一般には、100に1つとか、1000に3つと言われており、非常に競争が厳しく、だからこそ可能性があります。
- ・可能性とリスクは裏腹で、挑戦した結果として、うまくいかなかったというのは、ありうることです。
- ・指定を取り消した段階で、すでに雇用の廃止等をしていました。指定の条件上、取り消さざるを得ない、あるいは、返還を求めざるを得ないという判断のもと、そのような対応をさせていただきました。
- ・残念ではあるますが、しかるべき対応をしました。
- ・一時期、会社更生法の適用を受けてやり直すという話もありましたが、非常に大きな資金が必要で、資金回収までに様々な山、谷を越えていかなければいけないという状況があり、破産に至ったわけです。
- ・交付済み額の補助金の返還に係る債権に関しては、破産手続きの中でしかるべき法的な手続きをとっていくということかと思います。
- ・税金と違い、国税徴収法の適用がありません。優先権のない一般債権になります。そう

なると、全体の債権の中の一部ということになるので、法的な破産手続きに肅々と参加し、極力回収できるものは回収する。市民の税金ですので、それは、我々の役割だと思っています。

- ・一方で、交付した補助金の分については、すでに固定資産税等で戻っている部分もあります。
- ・残念ではありますが、出した金額については、それほどの大きな損害にはなっていないと思います。

Q

- ・越前市の従業員の方へのフォローについては、どのようにお考えか。

A

- ・ハローワーク等と連携して、できる限りサポートしたいと思います。
- ・ただ、非常に優秀な方が多く、特に、県外から来ているも多いということですので、色々なところが欲しがっていて、人手不足・人材不足の中で、さほど心配する方はいないのではないかと思います。
- ・ただ、もしそのような状況があれば、ハローワークと情報を共有しながら、しかるべき対応をしていきます。

Q

- ・既に交付されている1億円について、財源は何であったか。

A

- ・一般財源です。

Q

- ・さきほど「それほど大きな損害にはならないのではないか」とおっしゃったが、どうしてそうなのかを、改めて、詳しく教えていただきたい。

A

- ・既に1億円を交付していますが、一定の見合いの部分は、すでに毎年の固定資産税として市に入っています。
- ・企業誘致に関する補助金は、通常、交付後7年とか10年とかをかけて、税で回収するのが基本的なスキームです。
- ・市町村の場合、ベースとなる税金は固定資産税ですので、固定資産税で回収する、あるいは、従業員の所得税や、雇用に伴う各種税収で返してもらうというのが基本的なスキームです。
- ・越前市では、補助金を分割して交付する仕組みをとっていたため、非常に短時間ではありましたが、結果として、交付した補助金の分については、相応の税収があり、税収的には一応確保できたのかなと。
- ・短期間でしたが、全体の大きいスキームが、一応は実現ができたのではないかと。

・だからと言って、交付した分を返さなくてよいということではないので、返還請求をしたということです。

Q

・回収できたというのは、1億円相当を超える分が得られたということか。

A

・ほぼ、それに相当する額とお考えいただければ。